

しもずる 大崩山系 下水流谷 沢登 山行報告書

日 程：令和4年（2022年）7月17日

参加者：中山・土橋・中野・古家・岡村繁雄

全工程：9時間45分（沢遡行時間：5時間10分 下降：4時間35分）

前日、道の駅宇目に隣接するうめキャンプ村でテント泊。

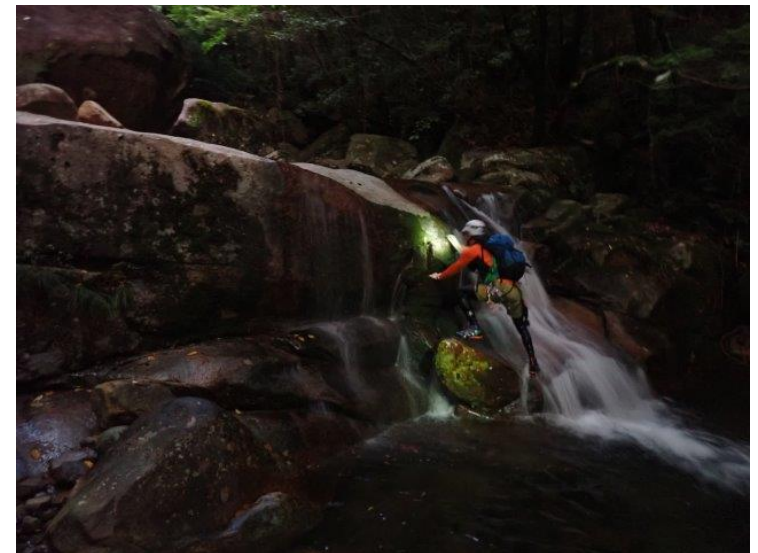
早朝、移動して5時出発、5時5分入溪。



車を路肩に駐車 5時出発



橋から入溪〔5：02〕



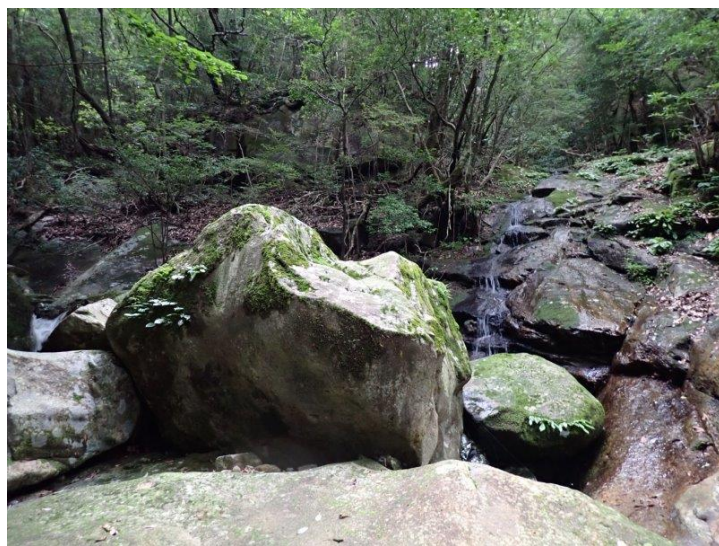
キャブランプを使用して入溪



左に 70mの岸壁 [5:58]



10m滝 抜け口 [6:41]



右からの支流を確認 [6:42]

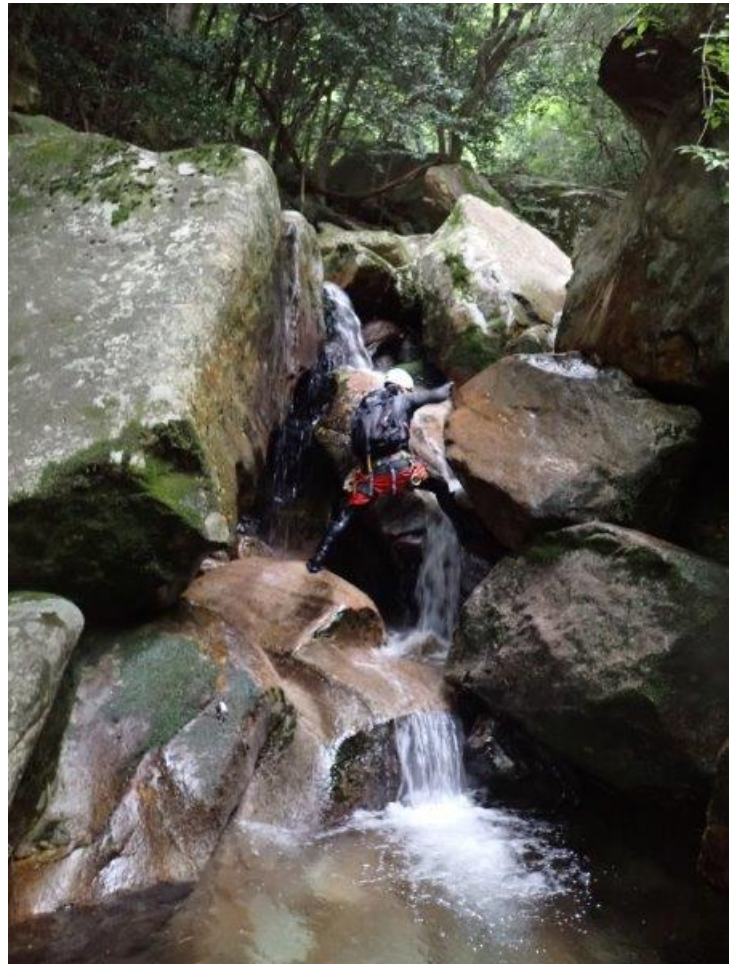


大きなホールドがあり意外と簡単に抜けれた [6:50]





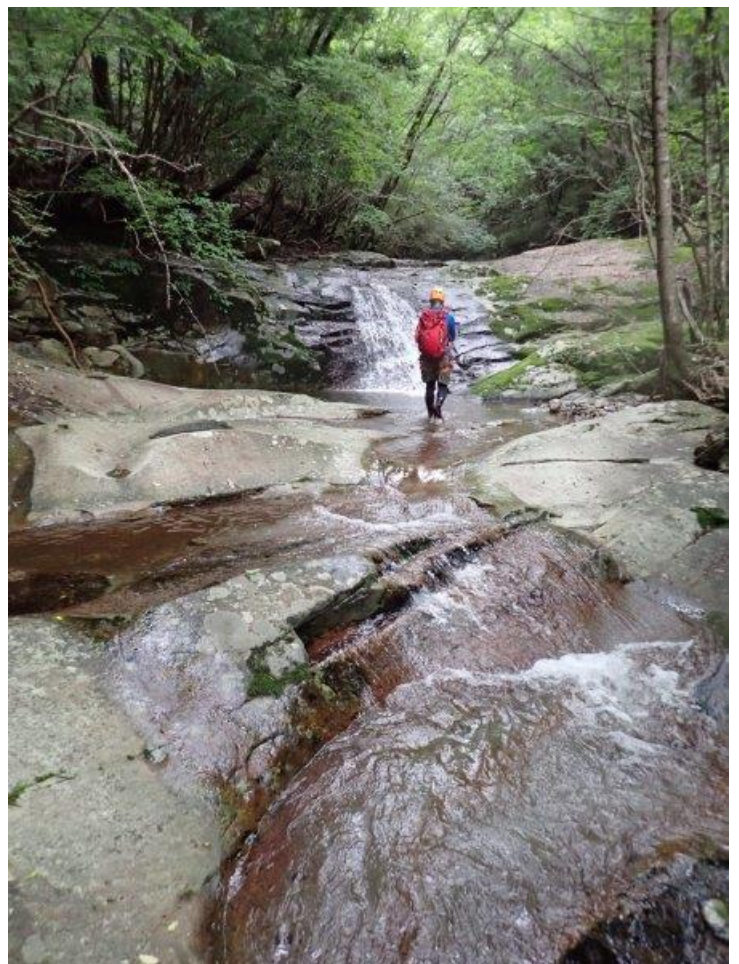
〔7:01〕



〔7:03〕



30m滝 高巻き 〔7:22〕



ナメが続く 〔7:44〕



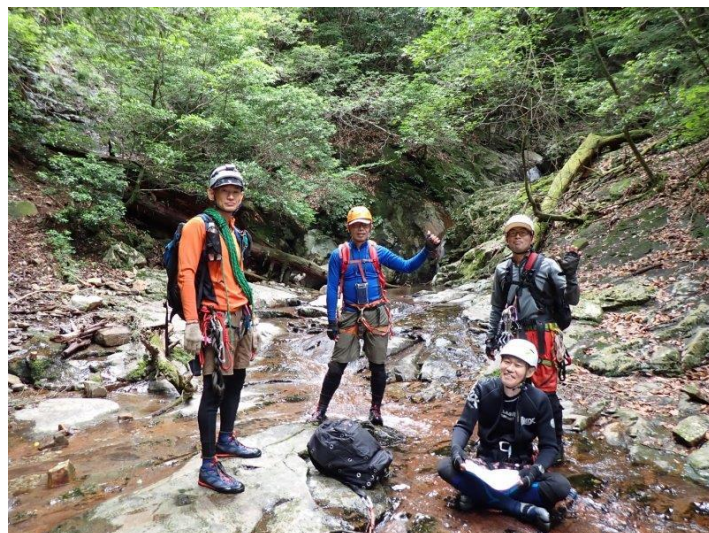
〔7:55〕



30m滝 左を高巻 〔8:09〕



30m滝の抜け口でトップロープの準備 [8:29]



30m滝上部で一服 [9:13]

予定より早かったこともあり、30mの滝にトップロープをセットしてトライした。半ば付近までで上部は傾斜がきつく登れなかったとのことである。

他のメンバーが約40分楽しむ間、私は靴を脱いで河原で休憩。

気が付くと、くるぶしをヒルに噛まれていた。下山後、風呂に入った時にも背中に一匹噛まれていて、当分血が止まらずTシャツが血まみれで二週間かゆみが取れなかった。



くるぶしに吸いついたヒル



感じの良い沢が続く [9:16]



[9:27]

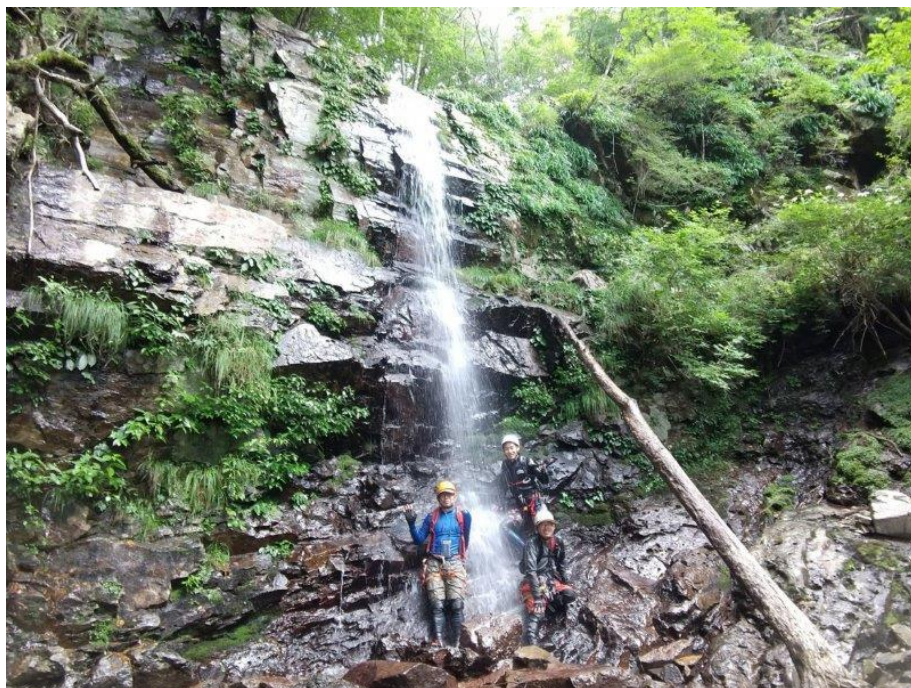


[9:29]



[9:45]

〔10:02〕



最後の 8m 滝



高巻いた後、滝の下に集うメンバー
〔10:12〕

6 時間ぐらいの廻行時間を予定していたが、途中の 30m 滝をトップロープでトライ、登ることはできなかったものの沢登を楽しみ、約 40 分を要したにもかかわらず、最後の 8m 滝まで意外と早く 5 時間 10 分で抜けることが出来た。

8mの滝を高巻後、周辺に下山ルートがないか確認したが、確認できなかったため、携帯ナビのGPSで国土地理院、地図上の点線を頼りに下山ルートをとた。

しかし、まったく踏跡が確認できず、あきらめ1,151mのピーク付近にいったん登り返した。

休息後、西側の尾根伝いに樹林の薄い場所を選んで下降した。



急な斜面をトラバース気味に移動



1,151mのピーク付近で休息〔11:24〕



沢を数か所、渡渉〔12:11〕



渡渉した沢で一休み〔12:27〕

武平谷の沢を渡渉した前後でテープが確認できたものの、すぐ登山道は確認でなくなり、ほとんどが荒れ果てた廃道状況であった。

その後も携帯ナビの点線上を頼りに下山、途中一回懸垂下降。

広タキスラブの沢を挟んだ西側付近でやっと登山道に合流。

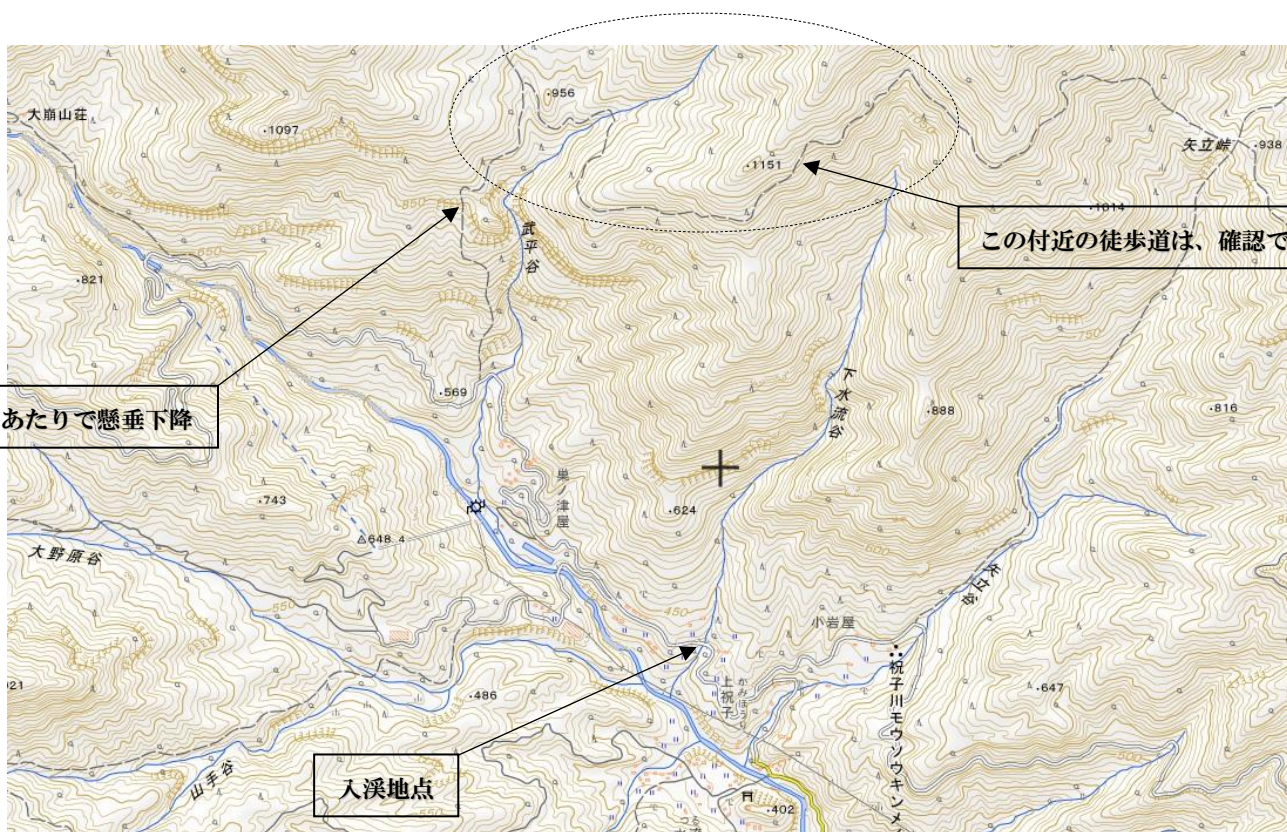
車道に出る数百メートル手前で鹿よけのネットで前方を阻まれ、枯沢を下降せざる負えなくなり、やっと車道に出ることが出来たのが、14時17分であった。



下山途中懸垂下降 1 回 [13:22]



出発地点にやっと到着 [14:44]



下水流谷周辺地図 (国土地理院より引用)

----- 記号の意味 「徒歩道 (とほどう)」とは、道路のはばが 1.5 メートル未満の道路を記号化した記号道路であらわし、次のいずれかにあてはまるものです。

1. 登山、観光、レクリエーションなどのためによく利用される道路
2. 集落を結ぶ必要な交通路となっている道路
3. 主要な場所につうじている道路

(国土地理院 地図記号の解説より)

この地図に記載されている徒歩道（-----）は、ごくわずか所々にテープが残っていたが、数十年前の山道で現在では、ほとんど確認できなくなっているのです、そのつもりで下山したほうが良いだろう。

沢はなかなか良く、遡行に 5 時間 10 分。

下山の登山道がまったく確認できず、下降に 4 時間 35 分を要し、予想以上にエネルギーを消費してしまった。

参考資料：九州の沢と源流

北九州山岳同好会「嵐」

Reported by S.Okamura Photo presented by M.Dobashi・S.Okamura